



TITLE:

支部欄

AUTHOR(S):

CITATION:

支部欄. 天界 1936, 16(181): 272-273

ISSUE DATE:

1936-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167209>

RIGHT:

支部欄

大阪支部報告 (4月)

◆大阪市プラネタリウムの工事進捗す

大阪市四ツ橋畔に工事進捗中の電気科学館の6・7階は東洋最初のプラネタリウム館となるもので、ドームの鐵骨も完成し、仰ぎ見る人々が驚異の視線を投げて居る。機械部は今秋ドイツより到來し、本年中に組立完成、來年勿々公開される由である。その曉は公開初日を本會臨時總會日とし、亦本會員の爲のクラブ室の實現も期待される。

◆支部報第6號發行さる

3月26日附にて支部報用紙3枚に互り、第1頁會告欄、第2・3頁談話室にて「掩蔽觀測の悩み」、火星に於ける倫理學「(思想評論)等が掲載されて居る。毎號110部謄寫版印刷され、大阪支部員の他新聞社や未入會の熱心な天文ファン等に發送されて居る。

◆支部例會4月2日開かる

開場18時半、出席者19名、19時過開會され、支部長百濟氏の「恆星の光度測定に就いて」歴史・理論・方法・應用方面に2時間に互り黑板に圖解や數式を用ひられて興味深く講話をされ、裨益する處甚大であつた。續いて質問會に移つた時、恰も小笠原諸島へ南洋と内地との黃道光同時觀測・太陽グリーン・フラッシュ觀測の爲に往航中の大口周作氏よりの無線電報到着し、西森氏が讀上げた「豫定ニヨリタツ、出席デキヌザンネン、盛會タイノル、大口」、尙氏の觀測報告は支部5月例會に發表される由である。本日は觀望會をも開催の準備をしてあつたが曇り、雨さへ降つたので中止された。今夏東亞天文協會の街頭進出策としての大阪市に於ける日食・天文の各展覽會・講習會の開催に就き本部の高城氏の發議あり、討議され次回支部例會にて名案が決定する迄に運ばれ、23時盛會裡に閉會。

大阪支部5月例會 (一般公開)

1. 日時 5月9日(土)18時半より

1. 場所 大阪 Y. M. C. A. (市電土佐堀舟町下車川沿西3丁)

1. 天文座談會

1. 天體望遠鏡による觀望會(曇雨天なれば學者に物を訊く會に變更)

例により大阪支部員と否に拘はらず、遠近より御出席して下さい

京都支部・京星會だより (3月)

寒い月3で上旬は天氣の悪い日が続いた。比良の八荒、奈良のお水取りが済んで下旬にはようよう春らしい日が射し初めた。櫻には早い清水寺、圓山、平安神宮の邊りは地方からの修學旅行團やお上りさんが連る。

○會誌「京星」3月號發行 天文雜誌京星會誌「京星」は昨春發刊以來隔月毎の月初發行を確實に續行し本月第8號となつた。内容は次の通りで61頁のもの100部製作され會員其他に配布された。残部あり希望の方は協會事務室宛2錢切手15枚御送り下されば御送附します。

卷頭言—自然に還れ、暗黒物質を語る—高井博典、流星の電離作用—寺町忠行、天文講座—日週運動と年週運動—宇野良雄、小望遠鏡で見える2重星の表(2)—稻葉通義、流星國際協同觀測 (Oliver-Hoffmeister Program)、小生の新星發見誤報につき—金田弘倫、南魚座新星出現—宇野良雄、星座神話・乙女座・鴉座、月面名所案内ロケットより—伊達英太郎、或る天文學論、觀測欄・黃道光課・變星課・流星課・遊星課、天文雜報、3月4月の天象、京星會協會京都支部報告、協會本部僚會だより、東京だより—金田生、贊同員瞥見、運動部・圖書部のページ、會告、其他。

○幹事會開催 3月5日(木)夜、若狹屋に於て6名の出席者により幹事會開催、事業打合せ及び會誌編輯に就ての意見發表協議がなされた。

○京阪懇親會 1月京都大阪地方委員間に打合せがなされた京阪在住協會員の懇親晚餐會は會誌に發表せられた通り、3月7日(土)17時より花山天文臺圖書室に於て開かれた。大阪より訪れられた13名の諸氏に京都の會員及び天文臺の諸先生を加へ30餘名がスト1ヴの周りに並べられた机に就き、山本博士の御挨拶、自己紹介、晚餐會と進み、相憎曇天のため觀望が出来ず、更に談話會に移り研究發表や自己の職業と天文の關係に就て等語り、興味深く聞かれ有意義な一夕が過ぎた。大阪市のプラネタリウム完成の曉には京都側が大阪に出掛け同所で再び京阪合同懇親會を開く事が約された。

大阪支部の老功勞者吉岡哲夫氏逝く

去る4月21日自宅(大阪市港區八幡屋寶町)にて逝去さる行年70。氏は本會創立當時より大阪に於いて、多年本會の爲め盡力され、大阪地方委員として例會にも屢々老軀を運ばれた。

菊と朝顔の栽培の第一人者で、特に菊花に天體名を附されたものは多く氏による。深く哀悼する次第です。

— 編輯 —